

金沢市議会 第5回意見交換会

平成27年2月17日（火）
玉川こども図書館 2階交流ホール

•

•1

テーマ 「学校規模の適正化」

•

•2

学校規模の適正化

1. 金沢市立小中学校の現状

(1) 小学校児童数、学級数

	H7		H22(H22-H7)		H26(H26-H22)	
小学生	28,398		24,841(△3,557)		23,734(△1,107)	
	学校数					
学級数	H7		H22		H26	
1～5	6	10.0%	7	11.9%	6	10.5%
6～11	10	16.7%	11	18.6%	11	19.3%
12～18	26	43.3%	29	49.2%	27	47.4%
19～24	16	26.7%	10	16.9%	12	21.1%
25以上	2	3.3%	2	3.4%	1	1.8%
計	60	100.0%	59	100.0%	57	100.0%

● 3

学校規模の適正化

1. 金沢市立小中学校の現状

(2) 中学校生徒数、学級数

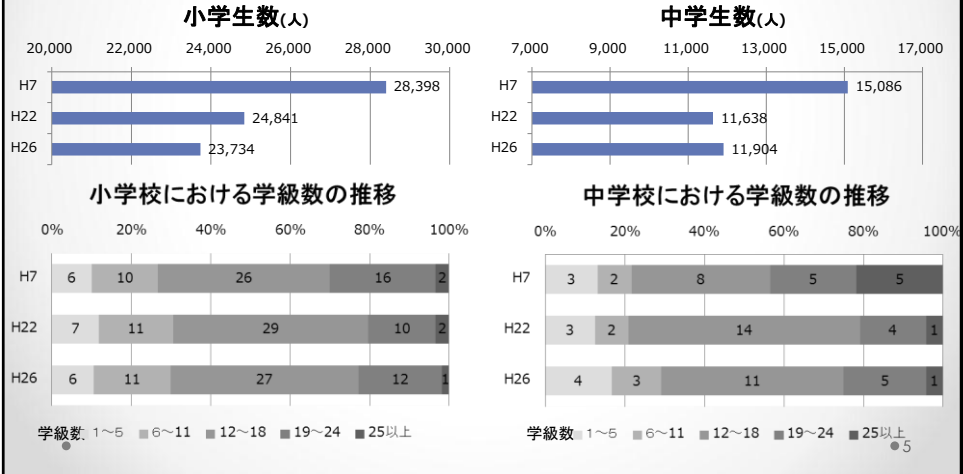
	H7		H22(H22-H7)		H26(H26-H22)	
中学生	15,086		11,638(△3,448)		11,904(△266)	
	学校数					
学級数	H7		H22		H26	
1～5	3	13.0%	3	12.5%	4	16.7%
6～11	2	8.7%	2	8.3%	3	12.5%
12～18	8	34.8%	14	58.3%	11	45.8%
19～24	5	21.7%	4	16.7%	5	20.8%
25以上	5	21.7%	1	4.2%	1	4.2%
計	23	100.0%	24	100.0%	24	100.0%

● 4

学校規模の適正化

1. 金沢市立小中学校の現状

(3) 児童・生徒数、学級数



学校規模の適正化

1. 金沢市立小中学校の現状

(4) 近年の統廃合及び新設

小学校

- ・ 昭和62年4月
長町小、松ヶ枝小、長土塀小、芳齋町小を統合し、中央小が開校
- ・ 平成3年4月
竹又小、土子原小、牧山小を廃止し、三谷小に統合
- ・ 平成7年4月
此花町小と瓢箪町小を統合し、明成小が開校
- ・ 平成10年4月
上平小を廃止し、朝日小に統合
駒帰小を廃止し、犀川小に統合
- ・ 平成19年4月
田上小から分離し、杜の里小が開校

学校規模の適正化

1. 金沢市立小中学校の現状

(4) 近年の統廃合及び新設

中学校

- ・ 昭和63年4月
鳴和中から分離し、北鳴中が開校
- ・ 平成元年4月
金石中から分離し、大徳中が開校
- ・ 平成2年4月
犀川中と東浅川中を統合し、犀生中が開校
- ・ 平成8年4月
泉中と高尾台中から分離し、清泉中が開校

●7

学校規模の適正化

2. これまでの教育委員会での議論

金沢市立小中学校の規模の適正化に 関する懇話会提言（平成22年8月4日）

①学校の小規模化に伴う課題

- ・ 学習面…集団の中で、多様な考え方に触れる機会や
学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくな
りやすい
- ・ 生活面…クラス替えが困難なことなどから、人間
関係や相互の評価等が固定化しやすい
- ・ 学校運営面…教職員数が少ないため、経験、教科、
特性などの面でバランスのとれた配置を行
いにくい
- ・ その他…PTA活動等における保護者一人当たりの
負担が大きくなりやすい

●8

学校規模の適正化

2. これまでの教育委員会での議論 金沢市立小中学校の規模の適正化に 関する懇話会提言（平成22年8月4日）

②学校の大規模化に伴う課題

- ・学習面…全教職員による各児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい
- ・生活面…学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい
- ・学校運営面…特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある
- ・その他…保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい

•

•9

学校規模の適正化

2. これまでの教育委員会での議論 金沢市立小中学校の規模の適正化に 関する懇話会提言（平成22年8月4日）

③適正規模の考え方

- ・人は様々な環境との関わりにおいて、人格の形成が図られること。
- ・社会環境の変化に柔軟な対応ができる力を養うためには、多様な集団と向き合う機会を持つことにより、社会性を身につけていくことが必要であること。
- ・特に金沢の子どもたちには、人と人とのつながりを基礎とし、コミュニティ活動に積極的に参加し、世界に発信できるたくましく生きる力を身につけてほしいこと。

•

•10

学校規模の適正化

2. これまでの教育委員会での議論
金沢市立小中学校の規模の適正化に
関する懇話会提言（平成22年8月4日）

③適正規模の考え方（続き）

一定規模以上の学校で人間関係を
築き上げていくことが大切

• 11

学校規模の適正化

2. これまでの教育委員会での議論
金沢市立小中学校の規模の適正化に
関する懇話会提言（平成22年8月4日）

③適正規模の考え方（続き）

概ね12～24学級を適正規模と
することを基本に検討を進める
ことが適当

• 12

学校規模の適正化

2. これまでの教育委員会での議論 金沢市立小中学校の規模の適正化に 関する懇話会提言（平成22年8月4日）

④規模の適正化に向けての基本的な方向性

各学校の現状及び今後の児童生徒数の推移を踏まえ、

- ・ 小学校については、**統合または通学区域の見直し**
- ・ 中学校については、**通学区域の見直し**

※通学距離、地形等の状況、施設の効率的な運用などを十分見極めて検討する必要がある。

●13

学校規模の適正化

2. これまでの教育委員会での議論 金沢市立小中学校の規模の適正化に 関する懇話会提言（平成22年8月4日）

⑤主な付記意見

- ・ 保護者や地域の方々と十分な協議を行うこと
- ・ 学校と地域コミュニティとのこれまでの関係を踏まえつつ、新たな関係を築くことが大切であること
- ・ 通学区域の見直しに当たっては、町会など地域活動の一体感を損なうことのないよう配慮すること
- ・ 校舎の改築予定を視野に入れて検討すること
- ・ 諸制度の動向を見極め、柔軟に対応すること

●14

学校規模の適正化

3. 提言後の統廃合

- (1) 野町小学校と弥生小学校が統合し、
泉小学校が開校（平成26年4月）

統合前の児童数・学級数（平成25年5月時点）

- ・野町小 168人 6学級
- ・弥生小 398人 13学級

統合後の児童数・学級数（平成26年5月時点）

- ・泉小 541人 17学級

※ いずれも特別支援学級を除く

●15

学校規模の適正化

3. 提言後の統廃合

- (2) 俵小学校の田上小学校への統合
（平成26年4月）

統合前の俵小の児童数・学級数（平成25年5月時点）

- ・ 5人（6年生4人、5年生1人）

俵小の過小規模及び複式学級が解消

●16

学校規模の適正化

3. 提言後の統廃合

(3) 朝日小学校の不動寺小学校への統合
(平成27年4月予定)

統合前の朝日小の児童数・学級数（平成26年5月時点）
・ 5人（6年生1人、3年生4人）

朝日小の過小規模及び複式学級が解消

● 17

学校規模の適正化

4. 本会議での議論（1）平成25年6月

質問 野町小と弥生小の統合について、不安を持つ児童や保護者が多いと聞く。具体的にどのように対応していくのか。

答弁 まずは児童や保護者に丁寧に説明することが肝要である。今後、交流行事の実施等について協議していきたい。また両校の先生方には気概を持って準備に取り組んでもらい、両校で培われてきた教育活動のよいところをさらに伸ばしていくことができるようにしたい。

● 18

学校規模の適正化

4. 本会議での議論（2）平成26年3月

質問 小中学校の統廃合等で既に顕在化している公立学校の余裕教室問題と有効活用、再整備と適正配置など、今後の検討課題とあわせて聞く。

答弁 市民が互いに地域社会における役割を認識し、他者とのかわりを大切にする社会が大切であると考えており、学校跡地については、生涯学習や市民交流の拠点施設として有効活用が図れないか検討していきたい。

●19

学校規模の適正化

4. 本会議での議論（3）平成26年6月

質問 朝日小学校の統合について、教育委員会としてどのように取り組んでいくのか。

答弁 朝日小と不動寺小は隣接校であり、既に学校行事等で交流を深めているが、今後は統合を見据え、授業やプール活動等においても児童の交流が図られるようにしたい。

●20

学校規模の適正化

4. 本会議での議論（4）平成26年6月

質問 効率や予算ばかりを強調し、子どもたちの教育や安全、地域づくりなどを後回しにする統廃合や移転はやめるべきではないか。

答弁 学校の規模適正化は子どもたちの教育環境の向上を図ることを目的に進めている。小学校区は地域コミュニティーの基礎であり、学校は地域に根ざした公共施設である。このことを十分に踏まえて、地域や保護者の方々に丁寧に説明し、協議を進めていきたい。

●21